

今月は自己止血についてです。
適切に止血をするということは、シャントを長持ちさせるために必要なポイントのうちの一つです。適切な止血は、シャントケアの必要な処置です。シャント管理のためにも自己止血をはじめてみませんか？

適切な自己止血方法



- ① 正確に血管の穿刺部を押さえます。
皮膚の穿刺部位と血管の穿刺部位は少しずれます。イメージしながら押さえましょう。
- ② 針穴よりもやや上を押さえます。
下を押さえると血流をせき止めてしまいます。
- ③ 強すぎず、弱すぎずの力で押さえましょう。
押さえる力が弱いと針穴からの出血が続いたり、皮下出血の原因にもなります。
強すぎても血流を遮断しシャント閉塞をおこします少し強めに押さえ、徐々に力を弱めるのがポイントです。

止血確認と処置について

止血時間が終了したら、止血が完了しているか確認しましょう。その時は血液が飛び出す危険性があるため、ゆっくりと圧迫を解除し止血を確認してください。

再出血を認めた場合は、再度、圧迫して止血時間を延長します。止血が確認されたら新しい止血パッドに貼り換えましょう。

帰宅中の再出血を心配し止血ベルトを巻いたまま帰宅される場合は、帰宅後必ずベルトを取るようにしましょう。

また、止血パッドは翌日剥がしましょう。



自己止血に慣れておくと、 災害時も安心です



「患者・ご家族向けの災害対応セミナー」

9月に開催予定です。

詳細は次回透析レターでお知らせします。